

平成 27 年 7 月号

児童発達支援事業所あいさい わかば 臨床心理士 岸 千鶴



ことばの始まり

梅雨の時期も折り返し地点に来ましたね。夏が待ち遠しいですが、今年の梅雨はこれからが本番の様です。今年の七夕に、織姫と彦星は逢えるでしょうか？皆さんの願い事も叶うといいですね。

皆さんは、自分が最初に話したことばが何だったか聞いたことはありますか？自分がどうやって話せるようになったかは記憶にないので、公園で会うあの子と比べて、自分の子どもさんのことばの発達にやきもきしたり、不安になったりすることもあるかもしれません。どんな風にことばが発達していくのか、一緒に見ていきましょう。

ことばを覚える

0歳は、ことばを話す準備段階「ことばを覚える時期」です。生後1ヶ月もすると、クーイングと呼ばれる「あ～」「く～」といった声を機嫌の良い時に出すようになります。

4ヶ月ごろには声を出して笑うようになり、意味のないことば「喃語」が出始めます。始めは「あー」などの母音の音から始まり、「ぶー」「ばー」などの子音、「まんまんまん」などのようにつなげる音へと発達していきます。

7ヶ月頃には90%の赤ちゃんが、「喃語」を盛んに言うようになります。9ヶ月頃には、「バイバイ」などの動作をする子が増え、10ヶ月頃には大人のことばを理解し始めます。「ママはどこ？」と話しかけるとそちらを見るようになる子が増えてきますし、喃語も減ってきて自分の気持ちを伝えるための声が出始めます。

11ヶ月ごろには「まんまんまん」や「ぱっぱっぱっ」が短く区切って言えるようになってきますので、意味なく「ママ」「パパ」と言うようになってきます。

ことばを使い始める

1歳のお誕生日を迎える前後に、意味を持ってことばを使うようになります。はじめの一言は「まんまんまん」が「ママ」に、「ぱっぱっぱっ」が「パパ」にというように、発音しやすい喃語の一部が、意味のあることばに変化することが多いようです。

個人差はありますが、世界的に見ても初めてのことばは、唇を合わせて発声する音が多いため、日本では身近な「まんま」「ママ」「パパ」が多いそうです。お父さん、お母さんと呼んでい



る家庭では、最初のことばにはなりにくいですが、「とっと」「かっか」「ちゃーちゃ」などと呼んでくれるのも可愛いですね。親の言っていることを言えないんだけど、真似しようとするのもこの頃からです。

1歳6ヶ月ごろには言える単語がずいぶんと増えます。1歳6ヶ月健診のころには20語前後出ていることもめずらしくありません。2歳ごろには話せることばは10倍にもなって、2語文も出始めるんですよ。名前を呼ばれて、「はい」と返事ができるようになるのも1歳6ヶ月頃からです。

1歳9ヶ月ごろには簡単な質問「お父さんはどこに行ったの？」に「あっち」「かいしゃ」などと答えられるようになります。欲しいものを「ちょうだい」と言って貰えるようになるのもこの頃からです。

2歳頃にはさかんに「なあに？」と聞く、話したいことはたくさんあるんだけど「あのね、あのね」の後が続かないことも多いですよ。

個人差

ことばがゆっくりだと、周りから何か言われるんじゃないかと不安になることもあります。でも、2歳頃にことばがゆっくりにことはよくあるんですよ。

大人のことばがよく理解できていて、耳の聞こえに心配がなく、大人と一緒に楽しく遊べるような個人差によってことばがゆっくり発達しているということですので、ことばを教え込もうとせず楽しく遊び、その子のできる表現を十分に受け止めてあげてください。



ことばの種をまく

でも、ただ遊べと言われても、それでことばが出るようになるか不安だという方もいらっしゃるでしょう。ことばは他人に気持ちを伝えるための道具です。その道具を使うためには、まずは相手に伝えたいという気持ちを育てることが大切です。発達が順調なお子さん、ゆっくりにお子さんも誰にでもいえることです。

その気持ちを育てるためにも、子どもさんの動作や発声に大人が真似をするなどしてたくさん反応をしてあげてください。そうすることで、自分のやったことに反応が返ってくるのが楽しくて、またやってみようという気持ちにつながります。これがコミュニケーションの始まりで、これが大切な楽しい「遊び」なんですよ。